

第2回骨粗鬆症サポーター協議会

平成30年12月1日（土） ウェルス幸手

【グループディスカッションでの意見】

骨粗鬆症サポーターとして、どのような取り組みを行っていますか？

- 初診時骨塩定量をし、その後4か月おきに実施している。
- 入院時検診の時に必ず骨塩定量をし、きちんと治療する。
- 骨密度測定をし、薬物治療を実施。患者さんが通える施設と連携している。
- ステロイドを服用されている患者さんを中心にスクリーニング実施。
- 歯科との連携をしている。
- 歯科のレントゲンで皮質骨を診て骨密度を予測できる。
- OLS委員会立ち上げて毎週集まっている。
- 寝たきりにならない為の転倒予防をしている。
- 理学療法士が外来に来て患者さんと面談し、リハビリ以外の話や他の病院にかかっている等の話を聞き、気が付いたことは看護師にフィードバックしている。
- 年に1回勉強会をし、1次予防をしっかりと診ていく。2次予防は理学療法士が関われる部分でサポートしている。（いつDXAの検査をしたか等…1人で30~40人の患者さんを担当し、聞き取りする。）結果として2回目の骨折はほとんど100%予防できている！
- 暮らしの保健室をしており、FRAXを用いて受診勧奨を実施している。
- 市民公開講座の実施。FRAXで骨折リスク評価後、生活指導を実施している。
- ロコモ関係の活動をしている。
- ポスター作成し、院内に貼って患者さんに見てもらおう。
- 外来に患者さんが来ていなかったら連絡をする。
- 精密検査が必要な人への働きかけ。
- 食事に関する指導をしている。
- 医療クラークが退院後の患者さんのフォローを行っている。
- 医師からだけでなく、他の科から毎月1回テーマを変えながら勉強会を実施している。

現在、取り組みが出来ていないのは、どのような理由がありますか？

- 認定を取ったが実際何をしていたかわからない。どうやって連携をしたらいいかわからない。
- 自宅での生活指導をしているが、その生活を継続していくことで本当に効果があるかが説明できない。
- 治療対象基準がわからない。対象の患者さんの絞り込みもできていない。
- 治療薬が多すぎてどのような症例にどの薬を使えばいいかわからない。
- 骨粗鬆症の診断を受けたい患者さんがいても、どこを受診すればよいか、どのように受診

すればよいかを説明できない。

- OLS 委員会を立ち上げたがどう進めていいかわからない。
- 医療関係者間に温度差があると感じている。骨粗鬆症に対する認識レベルがバラバラ。
- 老人ホームは検査や治療に個人負担がある為、食事のフォローしかできないことがある。

現在の取り組みに悩み、苦勞、課題はありますか？

- 骨粗鬆症の重要性が患者さんに理解されない。患者さんの意識を変えるのが難しい。
- 自覚症状が少ないとなかなか治療に行ってもらえない。
- 骨密度の検査結果の変化が見えづらい為、患者さんのモチベーションが上がらない。
- 患者さんのご家族のサポートが必要なケースもあるので、ご家族の疾患理解も必要。
- 認知症の患者さんに対する知識が足りておらず、指導してもなかなかうまくいかない。
- 患者さんがドクターショッピングをしている可能性もあり、治療に難渋しているかもしれない。
- お薬手帳の記録がない、あるいは元々手帳がない患者さんの治療歴がわからない為、治療薬が被ってしまうケースがある。
- 骨粗鬆症が検査の項目に入っておらず、これでいいのかと思いつつも言えないケースがある。
- 診療科が違う先生には意見を言いづらいこともある。
- ステロイドを服用している患者さんに骨粗鬆症の治療を実施されているかどうかは施設間に差があるように感じる。
- 入院患者さんは入院中は治療継続できても、退院後リハビリが終わると治療もやめてしまう。
- 移動手段が不十分であり、高齢者が受診・治療を諦めてしまうケースがある。
- 検診・市民公開講座には本当に情報が必要な人が来れない。市の検診で精密検査でも全員が受診されているわけではない。
- 医科歯科連携でトラブルがあることもある。

その他の意見

- 今後は糖尿病教室に骨粗鬆症も取り込んで併せて実施していきたい。
- 患者さんの治療に対する理解を深め、治療継続率を上げたい。
- 骨粗鬆症治療をやめるとリバウンドがある為、丁寧な指導が必要。
- ビスホスホネートでの骨粗鬆症治療で患者さんに説明ができるエビデンスがほしい。
- 市の骨密度測定で精密検査が必要な方に精密検査を受診頂ける環境を作りたい。
- 骨粗鬆症の治療手帳のアプリがあればいいのでは？⇒とねつとにいずれ集約されていく??
- 地域で連携しながら他の病院の勉強会に参加したい。
- 積極的に骨粗鬆症マネージャーも目指したい。
- リハビリは病院だけでしかできないと思いつている方も多い。医療従事者から病院以外

でもできるということを伝えてほしい。

- 病院のロビーで健康体操イベントを検討している。
- 食事療法や運動療法を各施設で実施していると思うが、市全体で共通の指導方法を決めていくのもいいと思う。
- 治療を拒否する患者さんに納得してもらえる方法を共有できたらいいと思う。
- 骨粗鬆症というワードが難しく広まりにくいのでは？⇒「メタボ」や「ロコモ」などカタカナ三文字くらいのキャッチーなワードを盛り込んでみる。ゆるキャラを作るとか。キャッチフレーズを作る。
- 口腔ケアを考えると、ST との連携も必要になるかも。
- ポスターは老眼の方から見てわかりやすいもの、興味をひくようなものを。